

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	きららガラス未来館管理運営事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	きららガラス未来館運営業務	細々目	1	きららガラス未来館管理経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
平成20年7月から指定管理者制度を導入したことにより、施設利用者が導入前に比べて増加している。	民間活力による施設の事業目的に則した魅力ある事業を実施し、ガラス文化の定着と発信が図られる。	指定管理者制度を維持する。平成23年度から新たに指定管理契約を締結した。	
活動指標		成果指標	
運営に要する予算額		利用者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
25,105,000(円)	25,104,250(円)	13,000(人)	13,274(人)
102 %			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	25,105,000	25,104,250	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		25,105,000	25,104,250	
合計		25,105,000	25,104,250	合計		25,105,000	25,104,250
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0	0				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
リピータが増えて利用者が増加しているが、広く市民に、体験等のすそ野を広げることが課題。	イベントの工夫。出張体験等の拡大。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	文化会館管理運営事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	文化会館運営業務	細々目	1	文化会館運営業務
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
文化会館は、平成6年4月に開館以来、芸術文化の中核施設として多くの方の利用をいただいている。特に、大ホールの施設・舞台環境は、専門家からも高い評価を受けている。しかし、老朽化も進んでおり、適切な管理運営が必要となっている。	利用しやすい会館づくり、質の高い舞台環境の提供を行い、もって芸術文化の振興に努める。	優れた芸術文化の環境を提供するため、建物・施設面の適正管理とともに職員の専門性を高めていく。	
活動指標		成果指標	
文化会館におけるイベント等の開催件数		文化会館利用者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
1,100件	1,265件	54,000人	56,059人
成果指標の到達度 (B/A)			
103.8 %			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報酬	1,938,000	1,934,000	財源(割内訳)	国庫支出金		
	需用費	14,190,800	14,017,401		県支出金		
	役務費	661,000	539,033		地方債		
	委託料	18,118,200	18,038,758		その他	19.6	7,711,000
	その他	4,506,000	4,216,297		一般財源	80.4	31,703,000
合計	39,414,000	38,745,489	合計		39,414,000	38,745,489	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		2.75	10,207,120				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
会館利用者に気持ち良く利用していただいて満足度を上げ、次回も利用していただけるように気を配らなければならないが、施設・設備面においては老朽化が著しい。一方、会館使用料や空調使用料は他市の会館や市内の他施設と比較しても低価格に設定してある。	施設維持管理を適正に行い、施設を常に整えておくとともに、運営面においても利用者が利用しやすいようにスマートな対応に努める。また、今後は設備改修のための特定財源を確保する意味においても、会館使用料及び冷暖房料使用料の改定(増額)の検討を進める。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	主催文化事業実施事業(文化会館実施事業)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
平成22年度に全国公募により文化会館の館長を民間から迎え、同年から実施してきた文化会館での主催文化事業を継続。(24年度事業:「おんがくであそぼう」12回、「アラ還フェスティバル」2回、ファミリーコンサート」6回、「ティータイムコンサート」6回)	幅広い年代の人を対象にした事業を開催することによって、文化会館への来場者を増やし活性化を図るとともに、市民の文化意識向上を図る。	0才児からのファミリー向けコンサート「0才からのファミリーコンサート」、休日の午後に茶菓子付きでリラックスしながら音楽を気軽に楽しむ「休日屋下りのティータイムコンサート」、乳幼児と保護者を対象に音楽で楽しくスキンシップをする「おんがくであそぼう」、60才前後を中心としたバンドのコンサート「アラ還フェスティバル」といった独自事業を実施。今後も事業を企画し、増やしていく。入場料を徴収し、特定財源に充てる。	
活動指標		成果指標	
実施回数		参加者数・入場者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
26回	26回	1,600人	1,468人
91.8 %			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	530,000	490,000	財(源割内訳)	国庫支出金		
	需用費	414,000	67,097		県支出金		
	役務費	20,000	1,360		地方債		
	委託料	53,000	52,500		その他	100	698,000
	材料及び賃借料	70,000	31,262		一般財源		389,000
合計	1,087,000	642,219	合計		1,087,000	642,219	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.7	2,795,360				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
これらの事業について、お客様にはおおむね好評をいただいているが、演奏者の発掘・交渉については、これまでのところ館長の人脈によるところが大きい。	これまでの事業などで得たつながりを大切にし、県内で活躍される演奏者と良好な関係を築いていくことが重要である。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	青少年劇場・巡回芸術劇場公演事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
市内の児童・生徒が芸術文化に触れる機会を充実させるため、山口県主催事業である本事業を共同主催で実施。現在は、市内の小学校を対象に年2回(2校)で実施しているが、中学校では実施できていない。	市内の児童生徒を対象に、芸術文化に親しむ環境をつくる。	平成17年度に校長会での説明し了承を得た順番に従い、毎年、市内小学校2ヶ所において、演劇やコンサート等の学校での鑑賞機会を提供するため、青少年劇場・巡回芸術劇場の公演を開催。公演内容については、学校側が事業メニューから選ぶ。山口県主催事業で事業経費の一部を負担。	
活動指標		成果指標	
開催に必要な予算額		公演回数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
387,000円	283,825円	2回 (小学校2校)	2回 (小学校2校)
			成果指標の到達度(B/A)
			100%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	24,000	7,150	財源(割内合訳)	国庫支出金		
	負担金・補助金及び交付金	363,000	276,675		県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	387,000	283,825
合計		387,000	283,825	合計		387,000	283,825
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	593,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
現在は小学校のみで、中学校では実施していない。それぞれの小学校、中学校で在学中に1回は必ず鑑賞等ができるようにするためには、小学校では6年に1回、中学校では3年に1回は巡回しなければならない。また、複数校の児童、生徒を1か所に集めて鑑賞してもらうためには、移動に伴う予算または学校側の理解(学校での費用負担等)が必須となってくる。	中学校に対しては、県内で活躍されている音楽家によるアウトリーチ(出前公演)の提案を毎年行うように努める。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	市民文化祭開催事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	14	市民文化祭開催経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
市民の自発的な芸術文化の活動の活性化は、更なる文化振興を図るためには不可欠なものである。市民の芸術文化活動をさらに活性化させるため、日頃の成果を発表する機会として、山陽小野田市民文化祭を実施する。また、鑑賞・参加の機会を提供することにより、「人」と「文化」をつなぎ、また、ジャンルや団体を越えた「人」と「人」のつながりを作る、きっかけづくりとすることを目的とする。運営体制の見直しが必要。	市民の自発的な芸術文化活動の活性化を図ることにより、市内の芸術文化の向上につながる。	市民文化祭は、部門を12部門に分け開催する。部門は、川柳大会、日舞大会、市民音楽祭(一般音楽部門、カラオケ部門)、華道展、菊花展、展覧会、邦楽大会、市民茶会、洋舞演劇大会、俳句大会、短歌大会の全12部門。協会や連盟等が主体となって運営している大会と、事務局が主体となって開催している大会がある。また、華道展、菊花展、展覧会の会場設営については、シルバー人材センターに委託している。	
活動指標		成果指標	
開催部門数		参加者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
12部門	12部門	1,500人	1,300人
86.7 %			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	36,000	36,000	財(源割内訳)	国庫支出金		
	需用費	156,000	154,722		県支出金		
	役務費	76,000	76,000		地方債		
	委託料	77,000	71,500		その他		
合計	345,000	338,222	一般財源		100	345,000	338,222
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計			
		0.4	2,372,000	345,000 338,222			

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
市民文化祭は、現在12部門で開催している。部門によっては自発的に実施しているものもあるが、事業内容や組織編成により自発的な実施が難しい部門もある。全部門が自発的に実施できるように手法や内容等を検討する必要がある。	市主導型の市民文化祭から市民による自発的な市民文化祭へ移行していくため、文化協会の各部門に対し、事業内容や運営方法などについて指導していく。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	民間と連携した文化活動の場づくり								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般	
事務区分(根拠法令)		自治事務				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
より多くの市民に文化会館へ足を運んでもらい、多彩な芸術文化に触れてもらえるよう、平成22年度から意欲がある市内外の芸術家を公募し、芸術家集団「アーティストBOX」を立ち上げ、ネットワークを作り、会員相互の交流を図っている。その中で、他分野の芸術家とコラボレーションした事業(ミニコンサートや作品展示など)を展開するため、現在も加入者を募集しながら会議とイベントを企画実施している。	市民の自発的な芸術文化活動の活性化を図ることにより、市内の芸術文化の向上につながる。	アーティストBOXのメンバーが企画運営する「アートのみまてぼこ」(企画展)を文化会館にて開催。その企画展のための企画運営会議を実施する。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
会議回数		入場者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	85.2 %
3回	2回	600人	511人	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	30,000	17,692	財(源割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	30,000	17,692
合計		30,000	17,692	合計		30,000	17,692
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.4	1,920,120				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
市内の芸術家や師匠・師範クラスの作品によるハイレベルな芸術空間を目指しており、来館者にはおおむね好評をいただいている。今後もその趣旨を貫き、さらに高いレベルの作品を揃えることが必要である。広報・チラシなどで告知をし、メンバーの方にも手配りしてもらっているが、幅広い人に届く周知が難しい。	市内にはまだまだ高いレベルの芸術家がいらっしゃるので、そうした方への積極的な声掛けが必要である。チラシに工夫をして、他のイベント時に配布するなど多くの人に触れる周知活動をしていく。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	主催文化事業実施事業(公共ホール音楽活性化支援事業:財団法人地域創造)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続
						臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
山陽小野田市文化会館の活性化とともに、市民が気軽に芸術文化に親しむ環境づくりを推進するため、財団法人地域創造が実施する「公共ホール音楽活性化事業」を平成23年度に実施し一定の成果を得た。しかしながら、更なる文化会館の活性化へつなげるためには、当事業のような事業を今後も継続する必要がある。そこで、「公共ホール音楽活性化支援事業」を実施していくとともに、それ以降は地元アーティストを生かしながら、当事業のような事業を継続実施していきたい。	文化会館の活性化、音楽活動のための環境づくり、ホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりにつながる。また、3年連続で実施することができ、学校でのワークショップも市内全域で実施可能である。	財団からアーティストの派遣を受け、原則連続した3日間で出前コンサートなど地域交流を図る事業を計4回、文化会館でコンサートを1回実施する。財団の負担は、出演料、現地移動を除く交通費、宿泊費、日当、マネジメント料等と地域交流プログラム負担金の2/3。市負担は、出演料、現地移動を除く交通費、宿泊費、日当、マネジメント料等と地域交流プログラム負担金の1/3、会場・付帯設備使用料、会場要員費、音楽著作権料、楽器借上料、広告宣伝費、現地移動費、舞台制作費、ケータリング費。演奏会入場料は市に帰属。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
コンサート実施回数		参加者数・入場者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	81.5
5回	5回	610人	497人	
				%

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	80,000	21,000	財源(割内訳)	国庫支出金		
	役務費	210,000	130,790		県支出金		
	委託料	2,068,800	2,096,800		地方債		
	使用料・賃借料	20,000	29,373		その他	64.0	1,798,000
合計	2,378,800	2,277,963	一般財源		36.0	580,800	820,963
				合計		2,378,800	2,277,963
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.55	3,035,560				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
アクティビティを実施した4箇所では、幅広い世代に音楽の楽しさを知ってもらえたものの、文化会館でのコンサートの入場者数はそれほど伸びなかった。	入場者数を増やすための周知方法、及び宣伝活動に工夫が必要である。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	主催文化事業実施事業 (子ども文化ふれあい事業: 歌舞伎フォーラム)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般	
事務区分(根拠法令)		自治事務			予算種別	新規	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
子どもたちはコンサートや芸術鑑賞などに自由に行くことができない。しかし、子どもの頃の感動体験が後の人生に影響を及ぼす。本物の芸術文化に触れる機会が少なく、これまで、児童生徒を対象にした、芸術文化鑑賞の機会があまりなかった。そこで、将来を担う子どもたちに当市の文化施設である文化会館での生の鑑賞機会を市内小学生を対象に提供し、毎年実施していきたい。		子どもたちに生の鑑賞機会を提供することで感動体験してもらい、その感動体験から自ら考え、多様な世界観を形成してもらうことが目的。また文化施設で鑑賞してもらうことで、本物の雰囲気や鑑賞マナー等も学んでもらいたい。		平成24年度は伝統芸能である歌舞伎の公演を実施する。2回公演で実施し、その内1回を小学生対象の公演とする。なお、平成24年度は現代ガラス展開催中に実施し、当公演と合わせて、ガラス展の鑑賞機会も提供する。	
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)	
公演実施回数		参加者数・入場者数		78.7	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	% 866人	
2回	2回	1,100人	866人		

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	160,000	58,218	財源(割内訳)	国庫支出金		
	役務費	190,000	223,853		県支出金		
	委託料	1,838,000	1,831,300		地方債		
	使用料及び賃借料	534,000	347,000		その他	27.4	1,500,000
合計	2,722,000	2,460,371	一般財源		72.6	1,222,000	1,786,371
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計		2,722,000	2,460,371
		0.5	2,739,060				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
平成24年度は現代ガラス展開催期間に合わせ、ガラス展鑑賞とセットでの提案を行ったが、実際には2校しかガラス展鑑賞に参加されなかった。		学校との連絡調整を密にし、子どもたちの芸術文化鑑賞の重要性・必要性を丁寧に説明していく。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他			

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	主催文化事業実施事業(市民参加型事業:ピアノマラソン大会・山陽小野田少年少女合唱祭)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続
						臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
山陽小野田市ピアノマラソン大会は文化会館が開館して以来継続実施している事業で平成24年度、第18回目を開催。 山陽小野田少年少女合唱祭は、第21回国民文化祭・やまぐち2006「少年少女合唱祭」で得られた成果を引き継ぎ、国民文化祭開催後、毎年実施している事業である。ピアノマラソン大会は定着し、参加者数が増加している。合唱祭については、今後更なる発展が必要である。	市民の自発的な芸術文化活動の活性化を図ることにより、市音楽文化の振興に寄与する。	合唱祭は県内および近隣県の少年少女合唱団が一堂に会し、日頃の練習成果を発表するとともに、交流会を開催し、団体間の交流を深め、つながりを持てるようにしている。 ピアノマラソン大会は、市民を問わず文化会館所有のスタインウェイを1人1曲5分以内で演奏する参加型の事業である。ピアノマラソン大会・合唱祭ともに、募集を募り実施する。入場料(合唱祭)及び参加料(ピアノマラソン大会)を徴収する。	
活動指標		成果指標	
開催日数(合計)		ピアノマラソン大会参加者数 合唱祭参加者数・入場者数の合計	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
4日	4日	1,100人	1,213人
成果指標の到達度(B/A)			
100%			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	565,000	571,262	財(源)割内訳	国庫支出金		
	需用費	185,000	82,333		県支出金		
	役務費	135,000	114,771		地方債		
	委託料	430,000	404,270		その他	67	695,000
	使用料及び賃借料	20,000	13,571		一般財源	33	640,000
合計	1,335,000	1,186,207	合計		1,335,000	1,186,207	
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.45	2,216,620				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
ピアノマラソン大会は参加者数が増加傾向にあり、受入れ体制が限界に近い。 少年少女合唱祭は出演団体が固定化してきているので工夫が必要である。	ピアノマラソンは、実施方法や募集方法について、受入れがより容易にできるように改善策を検討していかねばならない。 少年少女合唱祭は、近年、市内の小学校の合唱団体にも声をかけ参加してもらっているが、それに加えてこれまで参加したことのない県内の児童合唱団体にも積極的に声をかけ、新たな交流を図るよう努める。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり
事業名	山口県交響楽団チャリティコンサート(共催事業)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
毎年最低2回は当館を利用して、練習を実施。そのうち、1回は市民に向け公開練習を実施している。23年度は公開練習を「東日本大震災チャリティコンサート」に置き換え、文化会館で行った。山陽小野田市の音楽振興とともに市民が生音楽に触れる機会を増やし芸術文化に親しむ環境づくりを推進するため、山口県交響楽団の同意も得て、今後も市の共催事業として年1回チャリティコンサートを行う。	市民が生音楽を鑑賞する機会をつくり、芸術文化をはぐくむ環境をつくる。また、文化会館への来場者を増やし活性化を図る。	山陽小野田市教育委員会共催事業として文化会館で山口県交響楽団チャリティコンサートを実施。文化会館において、チラシ・プログラムを作成し、また広報紙で開催日時などを知らせる。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
(公開)練習実施回数		入場者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	88.6 %
2回	1回	350人	310人	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	30,000	1,700	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	30,000	1,700
合計		30,000	1,700	合計		30,000	1,700
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.2	1,186,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
市民が生音楽に触れる機会は、この山口県交響楽団以外では減多にないため、共催事業として実施しているが、観客数はそれほど多くない。	より多くの市民に会場にいらしていただくため、事業内容を工夫したり広報活動を積極的に展開していく。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	市民館管理運営事業(文化ホール)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	4	市民館費
	細目	1	市民館運営業務	細々目	1	市民館管理運営費	会計種別	一般	
事務区分(根拠法令)		自治事務				予算種別	継続	経常	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
経年により施設・設備とも老朽化が激しい。市民文化の増進を図り、また大規模な集会施設として、市民が快適に利用できるような適切な施設の管理運営が必要。	安全・快適な施設利用	文化ホール及び会議室の貸出事務、音響照明業務、その他設備の維持管理を適切に行った。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
運営に必要な経費の確保 ※目標値(前年度実績)		文化ホールの利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	103 %
13,287,000(円)	13,290,000(円)	40,134(人)	41,173(人)	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	6,769,000	6,635,086	財源(割内訳)	国庫支出金		
	役務費	482,000	449,229		県支出金		
	委託料	6,161,000	5,722,650		地方債		
	使用料及び賃借料	425,000	301,117		その他	4,571,000	3,724,148
	その他	189,000	181,611		一般財源	9,455,000	9,565,545
合計	14,026,000	13,289,693	合計	14,026,000	13,289,693		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.86	2,768,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
利用希望者の行事が重なった場合、会場確保が困難な場合がある。準備を要する行事については、運用規定で6か月前から使用申請を受け付けているが、施行規則では、申請時期が1か月前と短い。また、施設の老朽化に伴い随所に不良箇所が出てきており、修繕料がかかる。	貸館業務としては、使用申請時期を統一することが望ましい。また、施設の維持管理については、なるべく経費をかけないように日頃から施設の保守点検を頻繁に行う。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	1	芸術文化を育む環境づくり			
事業名	市民館管理運営事業(文化ホール舞台吊物装置更新)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	4	市民館費
	細目	1	市民館運営業務	細々目	1	市民館管理運営費	会計種別	一般	
事務区分(根拠法令)		自治事務			予算種別	継続	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
ホールのステージは、各種照明や音響装置、吊物装置によって、舞台演出効果を高め、様々な芸術表現が可能となる。そのため、非常に重たい吊物がステージ頭上に吊っており、それを頻繁に上げ下げするので、構造的に非常に危険なものである。法的には規制はないが、県内のどの公立文化施設も、年数回の吊物点検をし、定期的な吊物機材の更新を行っている。		文化ホールの利用者の安全性が高まり、快適に利用できる。		操作盤(文化ホール吊物装置)を改修した。			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
必要な経費の確保 ※目標値(前年度実績)			工事進捗率				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
9,261,000(円)		5,775,000(円)		100(%)		100(%)	
%							

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	工事請負費	9,261,000	5,775,000	財(源内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		9,261,000	5,775,000	
合計		9,261,000	5,775,000	合計		9,261,000	5,775,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.005	25,859				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題		改善策	
舞台吊物は、構造的には非常に危険なものであるため、更新後も、年数回の吊物点検が必要である。また、改修には、多額の経費がかかる。		現行年1回の点検をしているが、点検回数を増やす。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	C	事業の抜本的な見直し又は休止・廃止の検討が必要 事業完了
その他			

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進
事業名	現代ガラス展開催事業					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
2001年故竹内傳治氏の遺志を受け、第1回「現代ガラス展inおのだ」を開催。その後、2004年・2006年・2009年・2012年と開催は5回を数え、45歳以下の若手作家の登竜門的コンペティションとして確固たる地位を築いている。	「ガラスのまち山陽小野田」の象徴的イベントで、開催は3年に一回(トリエンナーレ方式)。古代須恵器に始まり、セメント、硫酸瓶と続く山陽小野田の窯業の歴史を傳承しつつ新しい文化を創造するとともに、それを発信することで山陽小野田市を内外にアピールする。	主催は市・教育委員会・市議会や民間団体で組織する現代ガラス展実行委員会。市は必要経費の一部を負担している。第5回目の開催期間は24年7月7日～8月26日、場所はおのだサンパーク。さらにガラス未来館や市内在住のガラス作家、演奏団体など、現代ガラス関係者と連携して、作品を展示したり関連イベントを開催したことにより、それらとの関係を深めることができたのと同時に、より質の高い展覧会を市民に提供できた。	
活動指標		成果指標	
実施に要する予算額		来場者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
7,100,000(円)	7,629,325(円)	8,000(人)	8,061(人)
			101 %

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金、補助及び交付金	5,030,000	5,029,325	財源(割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	5,030,000	5,029,325
合計		5,030,000	5,029,325	合計		5,030,000	5,029,325
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.95	5,633,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
・「ガラスの街山陽小野田」というイメージの定着が不十分。 ・市長部局への移管後も、現代ガラス展開催者との信頼関係を維持していく必要がある。	・市と教育委員会だけでなく、実行委員会や実行部隊である推進委員会が、企画運営、入場券の販売等を行っているが、今後も市民参加型の運営方式を発展させる。 ・さらにガラス未来館の活用。プレイベントを開催して、市内の小学生に未来館で制作体験をしてもらうなど、一人でも多くの市民にガラス制作の面白さ、ガラス作品の美しさを感じてもらう。 ・第6回開催に向け、市長部局と教育委員会が協力して準備をする。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(文化協会)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
市内では約200の文化団体が活動しており、そのほとんどが文化協会に加入している。市民の幅広い芸術文化活動への参加や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実につなげるため、団体の育成・支援を行う。文化協会の運営については、平成23年度から事務局員を協会独自で雇用。協働して、市の文化振興に努めていく。	市民の幅広い芸術文化活動の展開や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図る。	文化協会を育成し、運営を支援する。	
活動指標		成果指標	
文化団体(文化協会)支援に要する予算額		文化協会加入団体数、個人加入者数	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
1,494,000円	1,460,945円	賛助・団体加入数:200、個人会員数:600人	賛助・団体加入数:189、個人会員数:431人
			成果指標の到達度(B/A)
			83.2 %

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金・補助及び交付金	1,494,000	1,460,945	財源(割内合訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	1,494,000	1,460,945
合計		1,494,000	1,460,945	合計		1,494,000	1,460,945
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	593,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
加入者が減少している。個人、団体、賛助会員の増加のため、文化協会に加入するメリットを充実させていかなければならない。	文化協会としても独自の事業(文化バスや協会独自事業・市主催事業へのチケット代補助など)を展開しているが、さらに魅力ある文化協会にするために各部門の活発な活動を促進し、その中からアイデアが出るように運営方法の指導・助言を行う。

事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(龍王伝説保存会)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
平成13年に開催された山口きらら博で発表した創作舞踊「龍王伝説」を継承・発展させるため、平成17年に結成された龍王伝説保存会の育成支援を行う。現在の活動は、年1回の発表のみであるが、平成23年度は小野田小学校での授業のなかに取り入れられるという新たな取り組みが見られた。年間を通じた活動など更なる継承活動が課題。また、事務局が文化会館内にあり、職員が事務局を兼ねているが、今後は保存会の運営を支援するとともに、自立を促していく必要がある。	市民の幅広い芸術文化活動の展開や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るため、市内の文化団体の運営を補助し、育成・支援する。	「龍王伝説」を継承発展させるとともに、保存会を育成し運営を支援するとともに、保存会事務局の自立に向けての働きかけを行う。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
会議、練習回数		発表回数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	100 %
7回	10回	2回	2回	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金・補助及び交付金	162,000	162,000	財(源内合訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	162,000	162,000
合計		162,000	162,000	合計		162,000	162,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	889,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成24年度は、市民まつりのパレードへの参加、及び市民館での単独発表会の実施と、2回の発表の場を持つことができたものの、年間を通じた活動など更なる継承活動が必要。また、現在は事務局を文化会館内に置き、職員が事務局を兼ねているが、今後は保存会の運営を支援するとともに、自立を促していく必要がある。	発表回数を増やす。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進			
事業名	文化団体の育成・支援、補助事業(市内学校関係)								
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費	目	1	社会教育総務費
	細目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費	会計種別	一般	
事務区分(根拠法令)		自治事務			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
山陽小野田市教育文化振興基金条例に基づき、山陽小野田市立小・中学校及び市内の高等学校の芸術文化団体とその指導者を対象に、運営費及び活動経費の一部を助成している。また、山口県内中学校の学校教育全般における文化活動の振興・発展を図ることを目的とした「山口県中学校文化連盟」の会費を負担し活動を支援する。	市民の幅広い芸術文化活動の展開や、質の高い芸術文化に触れる機会の充実を図るため、市内の文化団体の運営を補助し、育成・支援する。	市内小・中学校及び高等学校の芸術文化団体については、一定の条件を満たした大会への参加経費の一部を助成する(限度額50,000円)。また、山口県中学校文化連盟の会費(中学校在籍生徒1名につき100円)を負担し、市内中学校の文化活動を支援する。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
対象学校数		助成件数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	75 %
22校	22校	8件	6件	

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金・補助及び交付金	276,000	174,100	財(源割内訳)	国庫支出金		
					県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	276,000	174,100
合計		276,000	174,100	合計		276,000	174,100
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.05	296,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当
その他			

施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	16	多彩な芸術文化とスポーツの振興	2	芸術文化の振興	2	芸術文化活動の推進
事業名	芸術文化活動の顕彰事業(児童生徒書道展)					
予算費目	款	10	教育費	項	5	社会教育費
	目	1	社会教育管理業務	細々目	11	文化振興関連経費
事務区分(根拠法令)	自治事務				予算種別	継続 経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順	
芸術文化に顕著な功績があった個人・団体を顕彰することで、芸術文化の活性化を図る。現在は、表彰基準・審査等に多くの課題があるため、児童生徒書道展のみを開催している。	芸術文化活動の推進のため、芸術文化に顕著な功績があった個人・団体を顕彰することで、芸術文化活動の推進および活性化を図る。	市内在住または、在園・在学の園児、児童、生徒を対象に12月から1月にかけて書道作品を募集。市内書道団体の代表者等を審査員とし、審査した後、例年1月下旬から2月上旬に応募の全作品をおのだサンパークに展示し、市民ほか多くの来場者に鑑賞してもらっている。幼・保育園及び小・中学校各学年毎に特選・金賞・銀賞・銅賞・入賞を選出し、表彰状・参加賞等を授与する。	
活動指標		成果指標	
広報、啓発活動等の回数 周知する幼・保・学校の数		対象者(4-15才)に対する参加者(出品者)の割合 1,157人 / 7,059人	
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)
4回(HP、広報紙等) 幼・保24園、学校19校	4回(HP、広報紙等) 幼・保24園、学校19校	20(%)	16.4(%)
			成果指標の到達度 (B/A) 82 %

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	50,000	60,000	財(源割内訳)	国庫支出金		
	需用費	56,574	37,876		県支出金		
					地方債		
					その他		
			一般財源		100	106,574	97,876
合計	106,574	97,876	合計	106,574	97,876		
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.2	1,186,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
芸術文化活動の顕彰事業については、現在は「児童生徒書道展」のみを実施している。芸術文化に顕著な功績があった個人・団体等を顕彰し、市の芸術文化活動の推進及び活性化を図るためには、他の顕彰事業も検討する必要があるが、顕彰内容、審査方法等課題が多い。	他の顕彰事業についても実施を検討する。
事業の方向性(一次評価)	事業の方向性(二次評価)
A 計画どおり事業を進めることが適当	A 計画どおり事業を進めることが適当
その他	